

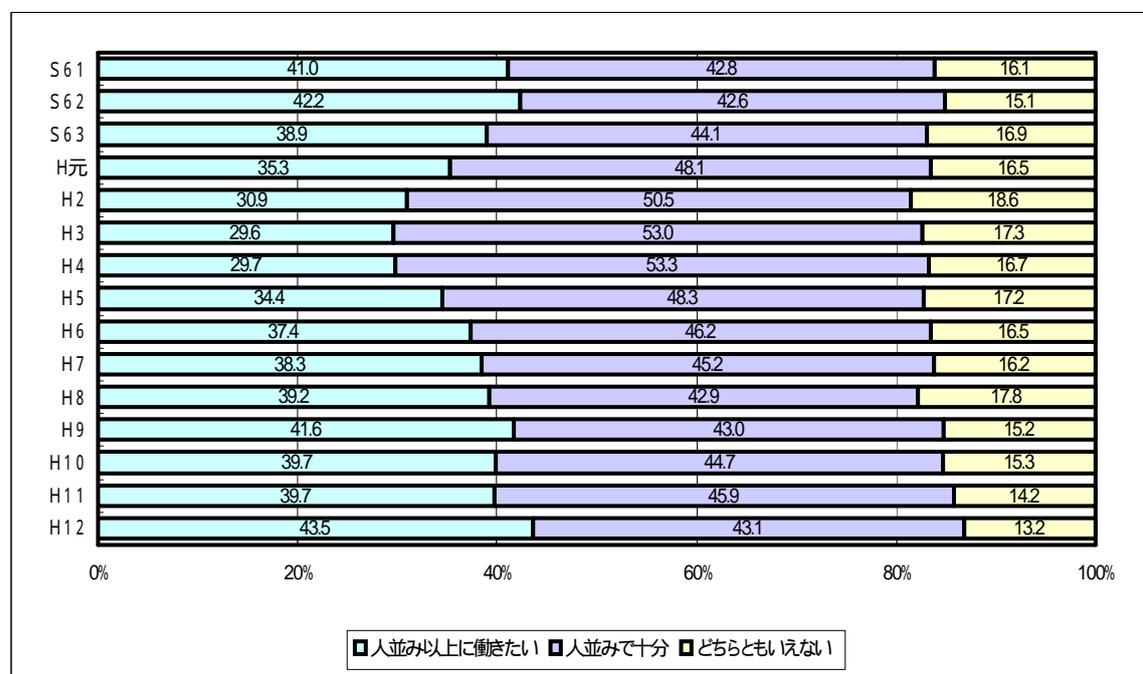
平成12年度新入社員「働くことの意識」調査結果の概要

調査の概要

- (1)調査期日:平成12年3月6日(月)~4月30日(日)
- (2)調査対象:国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた「平成12年度新社会人研修村」に参加した企業の新入社員3,243人。
(性別)男性67.3%、女性32.4%
(学歴)大学卒65.6%、高校卒13.3%、短大卒7.9%、専修学校4.4%、大学院卒4.9%
- (3)調査方法:同研修村に入所の際、各企業の担当者を通じて調査票を手渡して、その場で各調査対象者に回答してもらった。
- * 回答数値は、小数点第2位を四捨五入している。
* 無回答や不明は省略しているため、合計しても100にならない場合がある。
* 原則的に昭和61年度からのデータを掲載しているが、それ以降に新設、ないし変更があった設問については、その年次分から取り上げている。

平成12年度新入社員意識の特徴

1. あなたは、人並み以上に働きたいと思いますか。それとも人並みで十分だと思いますか。(Q7参照)



従来は、「人並みで十分」がトップで移行していたが、今回は43.1%（前年度比 - 2.8%）と、2位であった「人並み以上に働きたい」とする回答43.5%（前年度比 + 3.8%）と逆転し、働くことへの意欲が高まっていることを示す結果となった。

2. 働く目的について、あなたは、次のどれが自分の心に近いと思いますか。(Q5 参照)

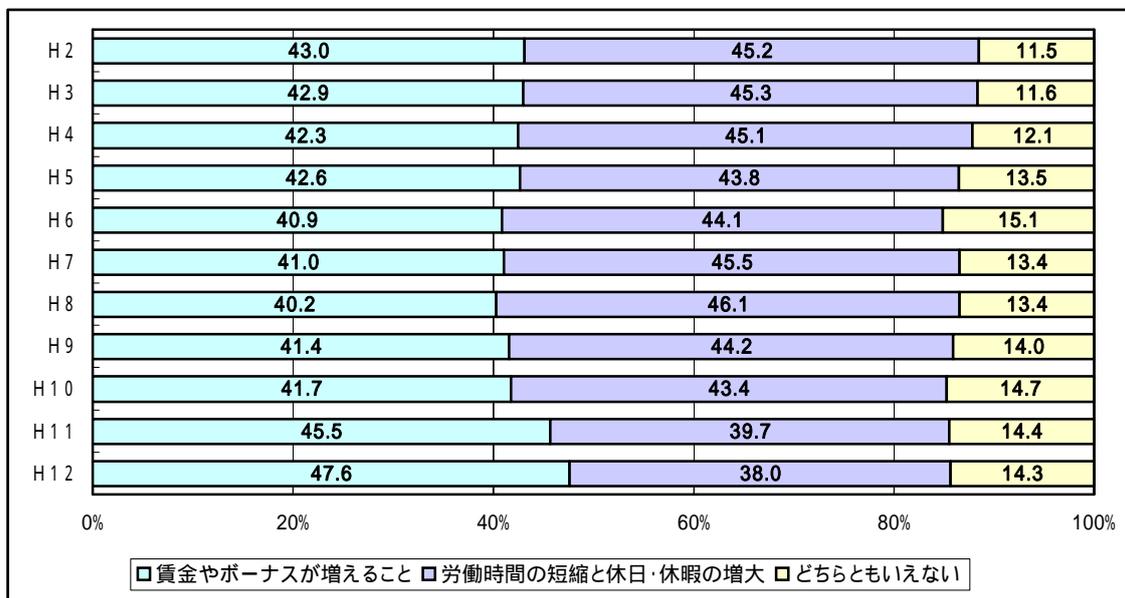
(%)

調査年度	経済的に豊かな生活を送りたい	社会的に豊かになりたい	楽しい生活をした	自分の能力をためす生き方をしたい	企業の発展のために働きたい	社会のために役に立ちたい	世の中に背を向けても、自分以上に生きていきたい	その日その日をのんきにやっつけていきたい	その他
S61	29.1	2.2	29.6	28.3	0.3	5.1	2.3	1.0	2.0
S62	26.8	1.8	31.4	27.4	0.4	5.5	3.2	1.1	2.3
S63	28.8	1.5	31.9	26.0	0.4	4.4	3.1	1.4	2.3
H元	26.1	1.7	35.0	25.4	0.3	4.5	3.5	1.2	2.3
H2	29.2	1.7	34.4	25.1	0.2	3.8	1.9	1.5	2.1
H3	25.7	1.8	32.2	25.9	0.3	4.0	3.1	3.3	3.6
H4	25.3	1.6	29.2	27.6	0.3	4.4	3.3	3.4	4.7
H5	24.8	2.3	30.4	27.9	0.3	5.0	2.4	2.8	4.0
H6	26.9	2.1	28.1	26.4	0.3	6.6	3.4	2.5	3.7
H7	27.0	2.2	29.4	27.7	0.3	5.5	3.2	2.0	2.7
H8	24.3	2.5	30.4	29.1	0.2	4.6	3.2	2.0	3.7
H9	24.8	2.0	29.2	29.8	0.3	5.1	3.4	2.3	3.2
H10	25.7	2.1	28.2	28.1	0.2	6.4	3.5	2.0	3.8
H11	27.1	2.4	28.2	27.7	0.2	5.4	3.1	2.4	3.5
H12	29.6	2.7	26.1	26.6	0.5	5.9	2.8	2.0	3.8

調査開始以来初めて、「経済的に豊かな生活を送りたい」29.6%(前年度比+2.5%)が「能力をためす生き方」26.6%(前年度比-1.1%)、「楽しい生活」26.1%(前年度比-2.1%)を抜いてトップに躍り出た。

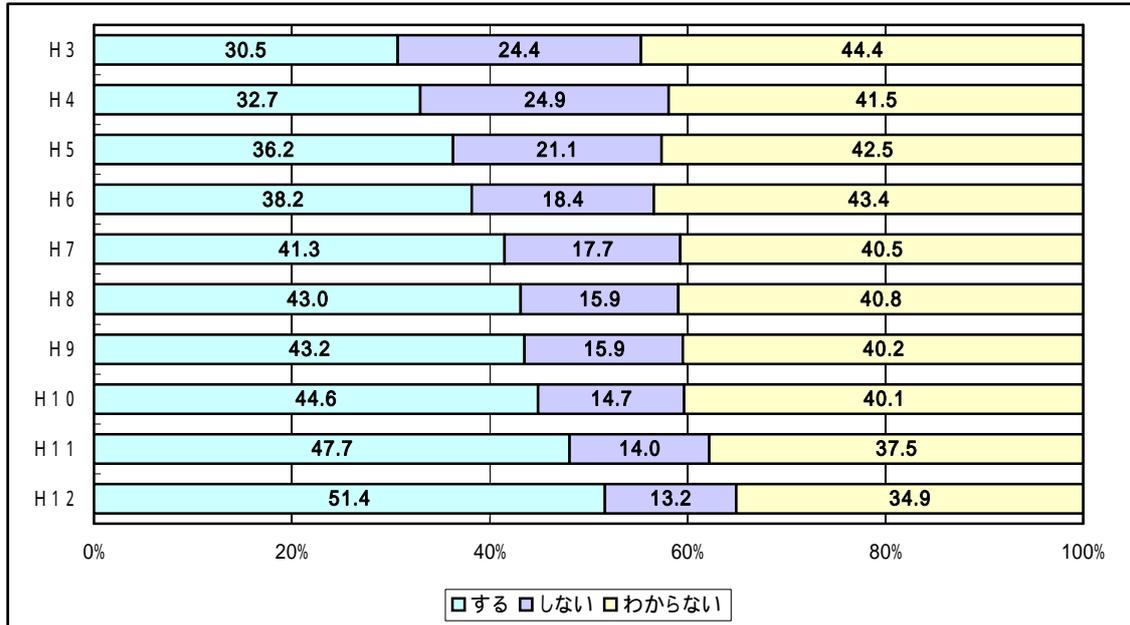
これは、若者の間で、金銭的豊かさ、生活水準の維持ないし向上を優先させたいとする意識が高まっているからだと思われる。

3. あなたは、会社に対して次のうち何を一番期待しておりますか。(Q10 参照)



今の若者にとって、金銭的豊かさや生活水準の維持・向上こそが優先事項であるという先の結果を裏付けるように、会社に期待することは、「労働時間の短縮と休日・休暇の増大」38.0%(前年度比-1.7%)よりも「賃金やボーナスが増えること」47.6%(前年度比+2.1%)であり、その差は拡大している。

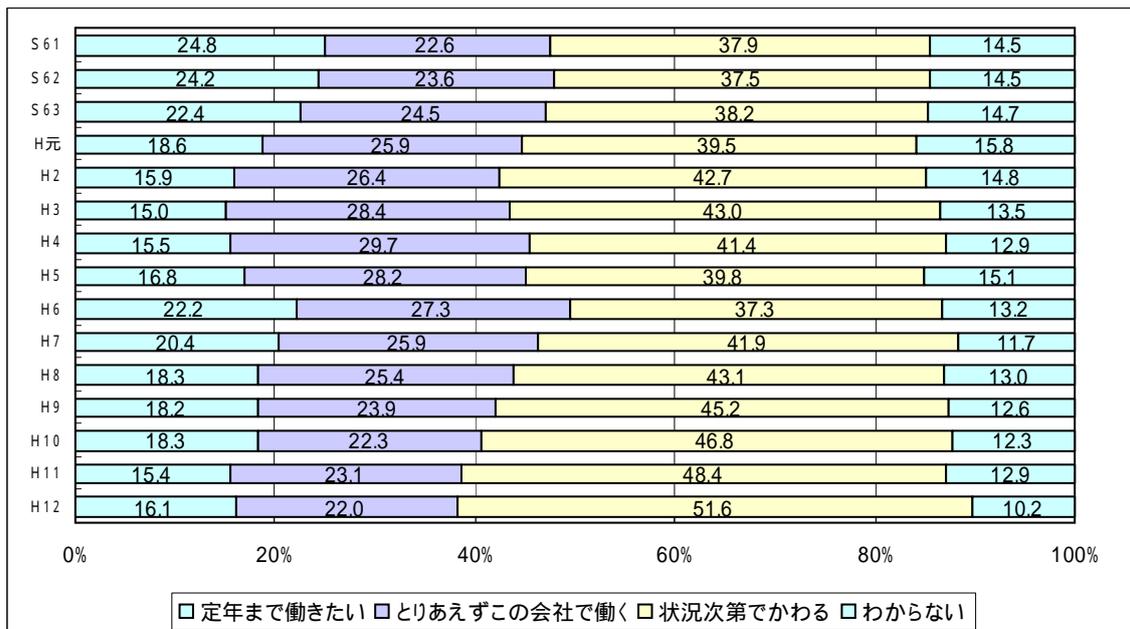
4. 共働きをするつもりですか。(Q33 参照)



結婚後の共働きについても、「する」が過去最高の 51.4% (前年度比 + 3.7%) を占めているが、これは自らが望む生活水準を維持するために共働きが必要だと感じているからだろう。

又、性別でみると、男性は「わからない」が 40.1% (前年度比 - 2.6%) と 4 割以上占めているのに対し、女性は「する」が 62.5% (前年度比 + 5.7%) と 6 割を超えており、結婚後も引き続きキャリアを積みたいとする女性が急増していることが窺える。

5. あなたは、この会社で、ずっと働きたいと思いますか。(Q16 参照)



入社した会社ですっと働くかどうかについては、「定年まで働きたい」16.1%（前年度比+0.7%）とする回答が近年減少傾向にあるのに対し、「状況次第でかわる」が過去最高の51.6%（前年度比+3.2%）を占めるなど、転職容認派が年々増えていることがわかる。

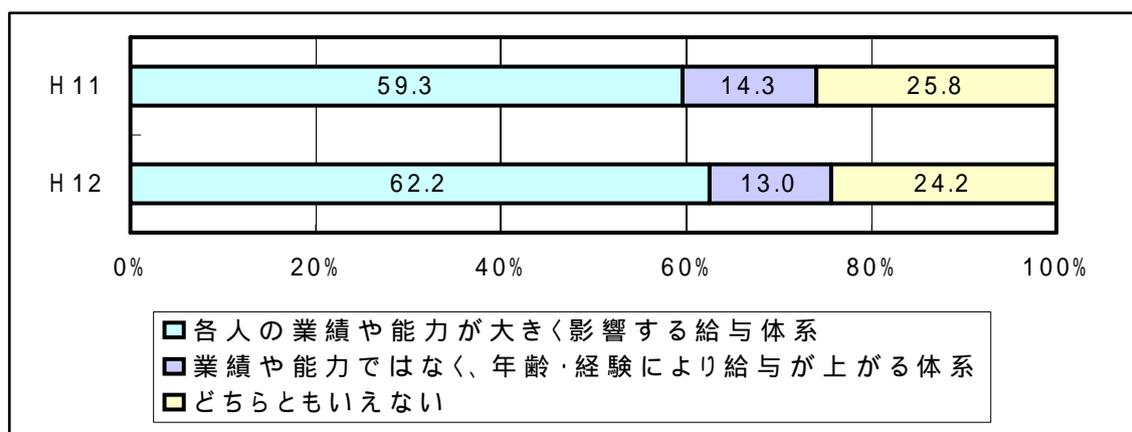
6. あなたは、会社に入ってから、どのポストまで昇進したいと思いますか。（Q13 参照）

(%)

調査年度	社長	重役	部長	課長	係長	主任・班長	専門職 (スペシャリスト)	役職にはつきたくない	どうしてもよい
S61	20.6	9.6	11.9	4.4	1.3	7.5	23.0	6.5	15.1
S62	20.4	9.7	12.4	4.6	1.2	6.3	22.5	7.0	15.8
S63	19.0	9.1	11.3	4.6	1.3	6.9	23.8	7.4	16.4
H元	18.9	8.8	10.9	4.7	0.9	7.0	22.7	8.0	17.8
H2	17.4	7.6	10.7	4.7	1.2	7.6	24.0	9.3	17.0
H3	19.0	7.0	9.9	4.2	1.3	7.1	26.0	8.7	16.4
H4	18.8	6.8	9.0	4.2	1.4	7.9	25.8	9.1	16.4
H5	18.6	8.8	9.7	4.2	1.4	7.5	25.1	7.9	16.7
H6	19.6	11.1	10.9	5.2	1.1	6.5	22.6	6.9	16.1
H7	20.2	11.9	10.7	3.4	1.5	5.8	24.1	6.9	15.4
H8	20.0	12.5	10.5	3.5	0.7	5.4	24.4	6.3	16.6
H9	21.3	11.6	9.8	3.3	1.1	5.4	26.8	6.1	14.4
H10	17.8	12.0	9.9	2.9	0.9	4.0	29.6	6.2	16.5
H11	19.3	11.0	8.4	2.9	1.1	5.7	28.7	6.9	15.6
H12	20.0	14.0	8.6	3.4	1.3	4.2	30.7	4.9	12.6

どのポストまで昇進したいかでは、例年どおり「専門職（スペシャリスト）」30.7%（前年度比+2%）がトップで、専門職志向が定着してきたといえる。一方、「社長」20.0%（前年度比+0.7%）、「重役」14.0%（前年度比+3%）といった会社のトップに立とうとする役職志向も近年になく強く、二極分化が進んでいるようだ。いずれにせよ、自分のキャリア（生き方）は自分で決めるという若者の姿勢が明確になってきた。

7. 給料の決め方（給与体系）について、あなたはどちらの体系がのぞましいと思いますか。（Q47 参照）（ 昨年度新設）



給料の決め方（給与体系）については、『業績・能力給』62.2%（前年度比+2.9%）、『年功給』13.0%（前年度比-1.3%）、「どちらともいえない」24.2%（前年度比-1.6%）となっており、能力主義・成果主義の導入に前向きな今の若者像が浮かび上がっている。

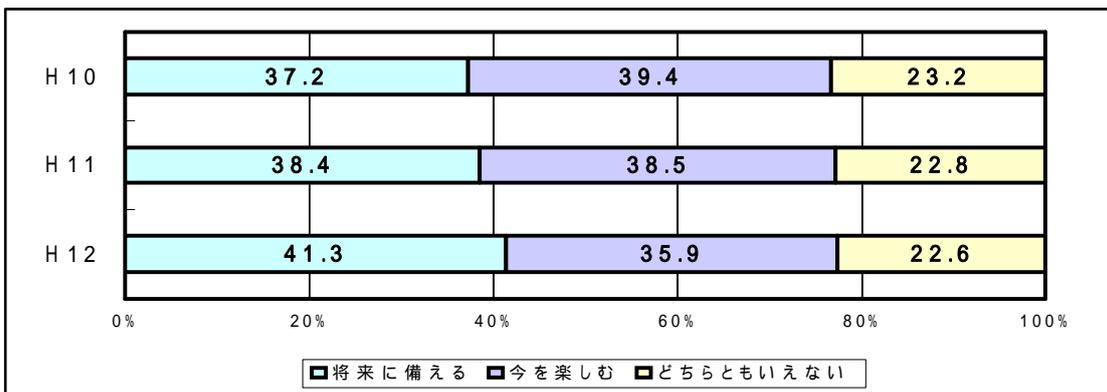
8. 余暇を生涯教育や自己啓発の時間として活用する場合、あなたはつぎの何を選びますか (Q31 参照)

(%)

調査年度	上級の夜間学校通信教育も含む)各種学校に通学する	教養を目的とした外部の講習会に参加する	自分で勉強する	今のところ考えていない	わからない
S61	6.7	24.2	26.5	35.6	6.8
S62	5.8	26.0	26.5	33.7	7.9
S63	6.4	27.1	23.6	34.7	8.0
H元	6.6	28.0	22.4	34.6	8.1
H2	6.1	28.2	20.6	35.6	8.5
H3	16.1	17.5	19.6	36.5	9.7
H4	16.5	19.4	19.7	33.4	10.1
H5	17.2	18.6	23.2	32.0	8.9
H6	17.0	18.5	25.7	29.4	9.4
H7	17.4	19.4	30.5	26.0	6.6
H8	18.3	20.5	29.0	24.8	7.2
H9	18.0	18.6	30.1	26.0	7.1
H10	18.1	20.1	29.7	24.5	7.4
H11	18.3	19.9	28.6	25.5	7.5
H12	18.8	22.4	31.8	21.2	5.5

「(余暇を生涯教育や自己啓発の時間として活用することを)今のところ考えていない」21.2% (前年度比 - 4.3%) 「わからない」5.5% (前年度比 - 2%) が大幅に減少している一方、全体の7割近い者が何らかの方法 「自分で勉強する」31.8% (前年度比 + 3.2%) 「教養を目的の外部の講習会に出る」22.4% (前年度比 + 2.5%) 「上級の夜間学校・各種学校に通学する」18.8% (前年度比 + 0.5%) で意欲的に自己啓発に取り組もうとしている。

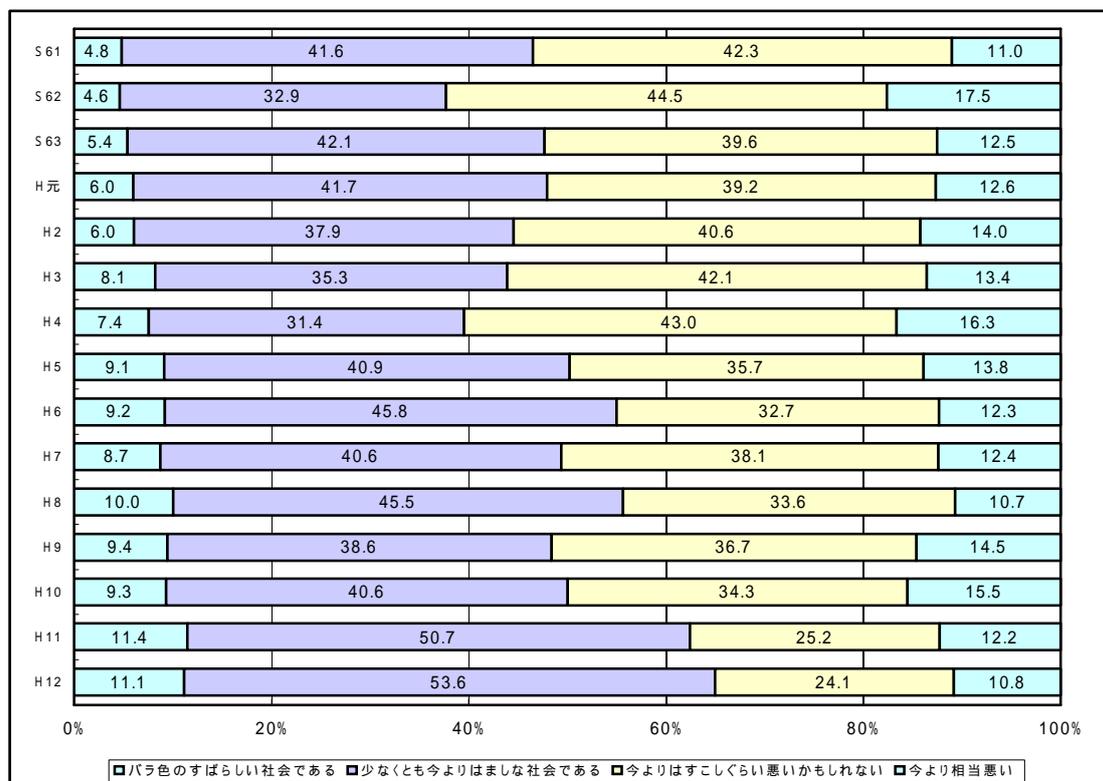
9. あなたは、将来に備えて今の生活を抑える方ですか。それとも、将来に備えるより、今の生活を楽しむ方ですか (Q43 参照)



将来に備えて今の生活をどうするかについては、「将来に備える」がトップで41.3% (前年度比 + 2.9%) と増加傾向にある一方、「今を楽しむ」35.9% (前年度比 - 5.6%) 「どちらともいえない」22.6% (前年度比 - 0.2%) がそれぞれ減少傾向にある。今年で3回目となる本設問では、「現在を重視 将来・現在とも重視 将来を重視」と、回答のウェイトが年々将来志向になっているのがわかる。

又、前回までは高年齢・高学歴であるほど「将来に備える」比率が高く、長期的な生活設計を考えている傾向が強いと思われていたが、低年齢・低学歴も同じ傾向を辿っている。

10. 10年後の社会は、今よりよくなっていると思いますか。（Q49 参照）



10 年後の社会は「今よりはましな社会」53.6%（前年度比 + 2.9%）が過去最高の水準となり、2 位は「今より少しぐらい悪い」24.1%（前年度比 - 1.1%）で、これは反対に過去最低の水準となった。「今より相当悪い」も 10.8%（前年度比 - 1.4%）と過去最低で、将来に対する悲観的な見方は減少し、いくらか楽観的な見方が広がりつつある。